

V26b すばる望遠鏡レーザガイド星補償光学系の開発 (3)

早野 裕、斉藤 嘉彦、鎌田 有紀子、家 正則 (国立天文台三鷹)、美濃和 陽典 (東大理天文)、高見 英樹、高遠 徳尚、大屋 真、Olivier Guyon、服部 雅之、渡邊 誠、Thomas Kane、Nangping Hou、Stephen Colley、Michael Eldrad (国立天文台ハワイ観測所)、小林 尚人 (東大理天文センター)、後藤 美和 (ハワイ大学)

レーザガイド星補償光学系は現すばる補償光学系の問題点である、(1) 補正性能が短い波長 (Jバンド) で十分でない、(2) 任意の天体を観測できない (スカイカバレッジが小さい)、(3) 補正できる視野が狭い、のうち、(1) と (2) を解決する狙いで開発が進められている。2002 年秋季年会から 2 回連続して報告を行ってきた。

我々は、11 月に国外のレビューワーをハワイ観測所に招き、すばる望遠鏡レーザガイド星補償光学系の基本設計レビュー (Preliminary Design Review, PDR) を予定しており、PDR にむけて、システムの詳細仕様の決定、基本設計を重点的に進めてきた。また、ユーザからのサイエンス要求を多く取り入れ、システムの仕様へのフィードバックを行う目的で、サイエンスワークショップを 8 月に開催する。

今回の講演 (ポスター) では、以上に述べた進捗状況をまとめて、以下の項目について発表を行う予定である。

- ・ 詳細シミュレーションによる性能評価の結果報告
- ・ 基本設計の現状報告
- ・ すばる望遠鏡レーザガイド星補償光学系のサイエンスワークショップ報告
- ・ 今後の計画進行予定、マイルストーンなどのスケジュール報告